

回顧

地球環境の予想と2025年に向けて

アイエス社労士事務所 所長 伊藤 悟

ミレニアムと言われた2000年から早や20年経過しました。21世紀に入ってから、ますます地球環境が変わってきたと強く感じられます。特に気象が変化してきたと感じるのは私だけでしょうか。

夏は猛暑日が増大、集中豪雨、スーパー台風の上陸、突風、ニュースでも、「今までに経験したことのない…」大雨特別警報」というフレーズが増えている感じがします。噴火や地震も増加しております。

「ある日突然始まる…」こんなフレーズがふと頭をよぎります。御嶽山の噴火がそうでした。9月後半の天候の良い日のお昼頃、突然始まったのです。御嶽山には30代のこ

ろ登頂したことがありません。山頂には神社があり、国常のみこと、という神様が祭られています。この神様こそ、日月神示という書物（明治時代に、岡本天明さんという神主さんが突然自動書記で書かされたと言われる書物）に出てくる神様です。「とつぜんはじまるのだから、気を付けてくれよ」「子の年を真ん中にして前後10年が正念場」などのお言葉が書かれています。御嶽山の神様のお言葉のもと、御嶽山で突然噴火が始まったのです。これはただ事ではない、深い意味があるのでは…と感じていました。私は子年生まれですが子年は今年、この年の前後10年はいろいろ起きることを

言っているのでしょうか。突然のコロナ騒ぎも2020年に始まりました。この年を境に正念場の事象が続くとすれば、歴史的にどのような経過を辿ってきたのでしょうか。振り返ってみますと、1905年に当時の日本は、世界最強と言われたバルチック艦隊を撃破し、ロシア戦争に勝利し日本中が浮かれていました。その調子のままどんどん領土を拡大し他国を攻め、その40年後どうなったか。1945年に世界初の原爆が投下され、日本は焦土と化しました。壊滅的な打撃を受けたのです。しかし、そこから謙虚に反省をし、国民の不断の努力によってみごと復興を遂げてきました。この1945年から40年間は、大きな災害もなく、新幹線の開業、東京オリピックの開催、大阪万

博の開催など次から次へと大きなイベント、そして高度経済成長を遂げました。やがてバブル景気となり、株価が38000円台まで上昇、なんでもアリの日本になりました。絶頂期、時に1985年です。

それから、40年の間に今度は雲仙普賢岳の火砕流から始まって、阪神淡路大震災、東日本大震災など、大きな災害がまた発生し始めております。歴史を見るに、どうも40年のサイクルで上昇下降を繰り返しているような感じが致します。ということは、40年を足した数字となる2025年までは、まだ我慢の年が続く可能性があります。こうした時代は、謙虚に誠実に、地球環境や大自然に対して畏敬の念を持って生きていくことが肝要かと思うのです。